

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホーム いずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条1丁目4番32番		
自己評価作成日	25年 7月10日	評価結果市町村受理日	平成25年9月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr&JigyosyoCd=0170502389-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、ユニット目標である「笑い」の色紙をいつも目に触れるようにユニットの中央に掲げ、入居者さんが明るく・楽しく・笑いのある豊かな人生を過ごしていただけるように「その人らしく自立した生きる姿」を温かい心と確かな専門性を持って日々支えよい関係性・絆が築けるように努力しております。常に自己研鑽と生活を共にする家族の一員であるとの思いで一緒に食事やお茶の時間を過ごし笑いのある一日を演出。不安や心配事、悩みなどにも耳を傾け、気持ちが落ち着き、安心と笑顔、その人らしさを取り戻せるように傍らに寄り添っております。認知症を正しく理解し気持ちを十分に汲み取る、表出している部分だけでその方を捉えるのではなく、ご本人の気持ちやフィーリング、感情の交流を大切にしながら非言語的コミュニケーションも織り交ぜ関わっております。「大丈夫ですよ!」と優しい眼差しとにこやかな微笑み、毎日がゆったりとした流れで、安全に、安心して過ごしていただけるように、言葉で伝えられない辛さや戸惑いにも関心を寄せ、受け止め、関わり、待つようにしています。心に余裕を持ち一人で抱え込まない、息抜きの工夫、チームで話し合い知恵を出し合う。感性を磨きケアの経験を重ね、「認知症の人」と共に歩んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 7月 25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「敬う心、尊厳ある暮らし」を日々申し送りや全体会議の場で再確認し、「地域の中でその人らしく当たり前に暮らし続ける」ことの支援を柱に、地域との絆・関係性を重視した取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な挨拶はもとより、町内会にも加入し地域行事には積極的に参加して地域の方々との交流を図っている。また近隣の小学校の総合学習の場としてホームを提供。入学式、卒業式、運動会、学習発表会など毎年招待を受け参加や見学などお付き合いが続いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所を近隣の小学校の総合学習の場として提供、協力している。また積極的に外出することやホーム主催の行事に招待し利用者の状態や状況を見ていただき理解に繋げている。キャラバンメイト活動を通じた啓発・啓蒙活動も行い理解と支援を仰いでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとのホームの現状や取り組み、おもな出来事等を報告し話し合いを行っている。会議での意見やヒント、アドバイスは日々の運営やサービスの向上に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	課題・疑問が生じた時は札幌市や国保連、地域包括支援センターへ問い合わせ、適切なアドバイスで解決に向けての支援を受けている。行政説明会、研修・勉強会にも積極的に参加。またキャラバンメイト活動の協力などで行政との協働、連携を大切にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ積極的に参加し全職員に伝達、学びの機会を共有し身体拘束となる具体的な行為や弊害について話し合い理解を深めている。各ユニット、事務所には「拘束ゼロの手引」を掲示、何時でも誰の目にも触れるようにして常に意識しながら尊厳に配慮、不適切ケアとならない様に身体拘束ゼロの取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の場やOJTでも取り上げ虐待に関する理解と法令遵守に努めている。虐待防止の研修会へも参加し知識を深め更なる理解に繋げている。ヒヤリハット活動で原因分析などを行い虐待が見過ごされることの無いように全員で注意を払い防止の徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてご利用者やご家族に「成年後見・任意後見制度」「日常生活自立支援事業」について情報提供し制度の理解と活用できるように支援を行っている。既に法定後見（補佐）を5名の方が利用に至り活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の相談・見学・面談等で十分話し合いを重ね理解と納得、更に契約時には重要事項説明書で双方確認し合い同意を得るようにしている。契約解除の場合でも希望する受け皿探しのお手伝いや相談窓口、機関に繋げるなど様々な社会資源の情報提供を行い不安や疑問の解消と理解・納得が得られる様に取り図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置。定期的に家族会・運営推進会議を開催し報告に加えご意見や要望などを伺い運営に反映させている。また はがきやアンケートなどによる意見の吸い上げ、来訪時には話しやすい雰囲気となるよう日頃からの関係性作りにも気を配っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の意思疎通を良くし何でも話しやすい雰囲気作りに努めており、日常的に意見や提案を発言しやすい環境にある。主に全体会議で職員間の意見交換を行い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の日頃の努力の把握が出来ているとは言えない。職場環境や条件の整備に努めていると思うが昨年来モチベーションの低下を招き改善されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を積極的に働きかけ、一人一人に合った内容での学びの機会が与えられている。また 受講報告は全体会議の席で発表し全員への共有化が図られ、意識・技術の向上に繋がるようなシステムとなっている。テーマを決めてのOJTによる勉強会の開催も併行して行なわれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入。事業所間との交流を深め情報や意見交換をしながら共にサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴を尊重し、安心・安全に暮らしていける場となるように、不安や心配事、困りごと等を把握・推測、傾聴し、想いを受け止め、安心と信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階でセンター方式アセスメントシートの記入依頼を通して、今までのご苦勞や心配事、ご家族の不安、困りごとに耳を傾け、これからのご本人の生活・人生を協働で支えて行けるように話し合い関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いや課題分析でニーズを把握し必要なサービスは何か、不安に思うこと、どのような暮らし方、生き方を望んでいるのか、ホームでの提供できる対応をお話し、住み替えによるリロケーションダメージを最小限に配慮した設えや関わりでより安心して頂ける提案、必要とする他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵や知識を教えていただきながら、生活の中で馴染んできたこと得意なことを行って頂き自信と満足、達成感で共に暮らし支え合い生活する関係性を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の心の痛みを配慮しながら不安を理解し今までの介護の労をねぎらう様になっている。ホームで生活することになり双方が複雑な感情、心理状態に陥らないようにご家族の介護力に学びながら双方の絆を大切に維持し、協働して共に支えて行けるように関係性作りを目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の時間や機会を制限せずに自由にして頂く。ご家族との外出・外泊の支援で馴染みの人や場所、絆が途切れる事のないように継続的に交流が続けられるように支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や互いの共通性を理解し気の合う同志が交流を楽しめる場を設定したり、全員での活動で共同生活が円滑に過ごせるように介入と調整で関係性の支援を行っている。個性や生活リズムの違いから浮いてしまったり孤立することの無いように目配り・気配り・心配りを怠らず関わりと支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても近況を尋ねたり了解を得て面会に伺ったりし、ご利用中に培った関係性を大切にしている。相談や経過のフォローなど必要時には福祉・介護・医療サービスご利用の情報提供他、関係機関へ繋ぐなどの支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で意識して思いや意向の把握に努めている。困難な場合でも行動や仕草、表情から想いを推し量りアセスメント。自立支援と本人本位に検討してケアプランや申し送りノートで全員での共有を図り更新時には満足度の評価も行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用時には聞き取りの他にセンター方式アセスメントシートを活用し情報収集を行っている。日々の関わりの中でも可能な限りご本人・ご家族から情報収集しケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ありのままの日常生活を観察し「できること、できないこと」「わかること、わからないこと」「生活リズム・24時間の生活変化」などのセンター方式アセスメントシートを活用。快・不快、環境が影響している事などの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の状況を把握、課題を整理して優先順位について話し合い、自立を阻害している要因、改善の可能性を踏まえたケアの内容と目標を設定したケアプラン原案を作成、本人・ご家族との合意をへて確定。モニタリング実践評価表により支援の適正度や満足度等を総合評価し次のケアプランの策定に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々人の日々の様子やケアの実践、結果を個別に記録職員間での情報共有化のため連絡ノートや受診ノートを併用して活用。カンファレンスを通して介護計画の見直しや統一したケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた受診援助や外出支援、外泊など必要とするサービスには柔軟に対応し、個々の満足が得られる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域資源を把握しご本人の暮らしを支えて行く接点を見出し出している。コンビニ、理美容室、周辺施設や町内会にも協力依頼の働きかけを行いホームで暮らしていても地域の一員としてその街で豊かな生活、安心して安全な暮らしとなるように協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけでなくご本人やご家族が希望する病院にも対応。ご本人のかかりつけ医との関係性を重視し、ご家族の協力も得ながら受診支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師からは、症状やいつもと違う様子を伝え相談することで、対応やアドバイス等の指導が受けられる。また 日常の関わりでの気づきや観察結果、異変を医師に繋げたいため迅速に適切な医療が受けられる協働体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	「介護要約」での情報提供で適切な医療が受けられるように支援。早期退院に向けては病状説明の機会にも同席させた頂きホームの体制を医師に伝え生活の可否などの見解を仰ぎながら受け入れの準備を進めている。ソーシャルワーカー、看護師とも連携を取り関係性を構築、入退院にむけた協働体制を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成し入居相談の早い段階からホームで出来る対応、限界などを説明。入居後もご家族の意向をその都度伺いながら話し合いを重ねホーム医師の協力を得ながら重度化や終末期に向けた方針を共有し、地域の病院とも連携を取りながら支援に当たっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は、急変時や事故発生時に初期対応と応急手当が行なえるように救急救命講習の受講と実技指導を受け実践力を身につけている。更に毎年の受講継続でスキルの維持を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は講習会やOJTなどの勉強会を通して避難・誘導できる技術を身につけている。入居者さんも町内会主催の防災運動会には毎年職員と一緒に参加しご理解と地域の方々の協力体制を築き上げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者さん一人一人のペースに合わせて、自尊心や誇り、プライバシーに配慮した言葉かけと対応となるように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えようとするご本人の思い・想いを遮ることなく自由に表現できるように、急かさず待つようにして傾聴。また 言語だけでなく表情や仕草からもお思い・想いを推し量るようにし、選択の際は自己決定ができるように助言等の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床～就寝までホームの日課・流れに一律に合わせるのではなくその日の心身の状態や状況、体調などを考慮し個人個人のペースや想いに副った生活・日課となるように支援。職員の方から働きかけ希望や意思を確認しながらメリハリのある楽しい一日を演出		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の際は一緒に洋服やアクセサリを選び、お化粧をするなどおしゃれを楽しんでいる。普段でも本人のこだわりや好み、季節に合った身だしなみの支援でいつも身ぎれいにしておしゃれを楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物や好みを伺いながら一緒に食材購入に出かけ、季節感や栄養のバランス、見た目の美しさからも食欲や楽しみが増すようにしている。個々人に合わせた形状や味付け、盛り付け、片づけ等できる場所は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが確保できるように食材は出来るだけ多くの種類を使い季節感ある旬のものを使用するようにしている。食事・水分摂取量を個人生活記録に記入、職員間で情報共有しながら、飲料の嗜好も把握し必要量を確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはセルフケア・一部介助・全介助・仕上げ磨きなど個々人の出来る力に合わせて実施、確認を行っている。義歯は食後の洗浄の他に夜間は預かり洗浄、洗浄剤を使用し定期的に除菌。歯科医・衛生士による居宅療養管理指導や受診で清潔保持をはかっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行いトイレで気持ちよく排泄して頂けるように支援している。また排泄パターンに合わせたパット、リハパンを使用しおむつはずしの検討も行いながらトイレでの排泄や自立に向けた支援の取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や繊維質の多い食品の提供、適度に身体を動かす働きかけで自然排便に繋がるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回を目安に意向を確認。拒否があった場合でも時間をおいて声をかけ、他の職員に変わってもらうなどしてその日の個々人に合わせた働きかけを行っている。自ら希望される場合はその都度対応し安全に楽しく入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から夜にかけては活動の予定を入れず就寝に向けてのリズムを整えている。足浴や不安で眠れない場合は暖かい飲み物を用意し傍らに寄り添い傾聴。日中も離床・臥床と休息のバランスを図るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々人の投薬の目的や効果、副作用を理解し指示通りに内服出来たかの確認を行っている。症状に変化があった場合は速やかに医師に上申。指示を仰ぎ、連携を図り個々人の服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと出来る事などを把握して、家事や買い物、畑や庭、花のお手入れなどで力を活かせる場面をお膳立てし、満足感や達成感、感動を共有している。日々、歌やおしゃべり、日向ぼっこや散歩、ドライブ、外出、外食などで気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などその日の希望や気分配慮しながら車いすであっても戸外へ出かける機会を作っている。お墓参りやふるさと訪問は、本人の希望に添えるようにご家族の協力を得ながら実施。音楽会、ふるさと祭、夏祭りなどの地域の行事へ参加する時には地域の皆さんの温かいご支援を頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要以上に金銭を持つことはないが、欲しいものを選んで買い物が出来るように、複合型大型スーパーへ出かける企画や近くのコンビニや八百屋さんへ一緒に出かけるなど地域の中で今まで通りに豊かな生活となるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話の取り次ぎや電話をかけるお手伝い、年賀状や普段の手紙のやりとりなど、プライバシーに配慮しながら支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節感ある飾りや行事の写真入居者さんの手作りの作品など、一緒に飾り付けを行い落ち着いた空間となるように設えている。心地よい音楽や懐メロなどを静かに流し、必要に応じて遮光するなど採光にも配慮し心地よく過ごせる工夫を凝らしている。ご飯の炊ける匂いや揺蕩う湯気、野菜を刻む音など家庭的で落ち着いた雰囲気を醸し出せるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端に椅子やソファを置き、気の合う人とおしゃべりや一人でくつろげる空間を作るなど思い思いに過ごすことが出来るような設えとしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はプライベートゾーンとなるように、ご本人、家族と相談しながら馴染みの家具や思い出の品、使い慣れた調度品を持ちこんでいただき、居心地よく安心して過ごして頂けようとしている。お仏壇を持ちこまれ心静かに参りされているかたもいらっしゃる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動が安全に行なえるように手すりを取り付けている。個々人の動作能力をアセスメントし、家具の配置や動線上に躓きや妨げとなるものを置かない様に工夫、安心して安全に自立生活を送れるような環境作りとしている。安心と安全に配慮し、御手洗いは夜間も照明をつけたままとしている。		